

経済透視図

(119)

日本の2030年度 告がある。ただ、目標のエネルギーミックス 達成にはさらなる取り（電源の最適組み合わせ）において、再生可能エネルギーミックス エネルギーミックス 能エネルギーの割合は 目標の内訳は太陽光が36―38%と非常に高い 14―16%、水力が11 目標が掲げられてい %、風力とバイオマス る。12年7月の再生可 がそれぞれ5%、地熱 能エネルギー固定価格 が1%という割合とな 買取制度（FIT）導 っている。現状の導入 入以来、その割合は拡 量では、バイオマスが 大しており、23年度は 風力を若干上回ってい 約26%（速報ベース） るが、バイオマスは海 に達しているという報 外からPKS（パーム

風力発電の動向

ヤシ殻)などの燃料の が進んでいる洋上風力 輸入が多く、電力の国 発電への期待は大き 内自給率や持続可能性 い。

方、欧州を中心に普及 課題は①発電コストの

高さ②騒音や景観③設 置場所の制限④発電量 の不安定性⑤設備の耐 久性⑥設置の耐 境アクセスメントや電力 系統接続の影響が大き く、これまで日本では 陸上風力発電の普及が

上風力の案件形成の加 置場所の制限④発電量 速」といった規制緩和 点ともいわれ、産業の 裾野が広く、将来的に 今後、さらに国や自 治体、産業界の連携が 進めば洋上風力発電は 進展が期待できる。洋 上風力発電所からの電 力供給にはケーブルの 敷設なども必要だ。そ の中で、電気を電池で 船によって運ぶ会社や (SEPP船)や港湾設 備なども課題であっ た。

ただ近年、大手建設 会社でSEPP船の建造 スタートアップも出 きており、今後の動向 に注目したい。

産官連携で追い風期待



SMBC日興証券
プライベート・
キャピタル・
ソリューション室
坂本博信

進んでいなかった。 にとっては、これまで 政府は第6次エネル 以上に取り組みやすい ギー基本計画の中で 状況になっている。

「風力発電の導入円滑 産業としてもガソリ ン自動車や部品数が3 万点、電気自動車が1 万点といわれる中、風 海城利用法に基づく洋 万点を公募するなど、積 (隔週水曜日に掲載)

無断転載・複写禁止